

# Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第78号

## ななえ古写真物語

VOL. 78

### 七重中学校

七飯中学校旧校舎

昭和30年ごろ

本町地区



七飯町における小学校の沿革を調べてみると、七重小学校をはじめ峠下や軍川など、その始まりが明治時代にまで遡るものが多いのですが、中学校について調べてみると、そのほとんどが、昭和22年以降となっています。

その理由として、第二次世界大戦後の大幅な学生改革を受け、それまでの国民学校高等科や中等学校などとしていた13歳～15歳までを中学校1～3年とする教育制度の改革があったことが考えられます。

写真の七飯中学校も、昭和22年5月1日に発足しました。当初は校名が「七重中学校」とされていたようですが、それは、おそらく発足当初の校長が七重小学校長が兼務していたからなのではないかと推測しています。現在の「七飯中学校」に改称されたのは、同年9月ですから、幻の校名といえるかもしれません。

さて、写真は旧校舎といわれるひと昔前の校舎で、建てられた場所も、今の中学校とことなり、現在の本町グラウンドのところにありました。昭和24年から25年にかけて、三期に及ぶ工事で、木造二階建校舎が完成し、昭和52年に現在の新校舎が開校するまでの間、多くの卒業生を送り出してきました。

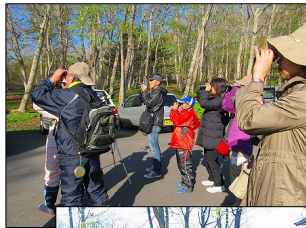
新校舎になってからも、旧中学校のグラウンドは「町民グラウンド」としてスポーツ振興の役割を果たしてきましたし、校舎の一部も町民のために活用されてきました。

例えば、昭和59年7月には、近い将来の町立博物館の建設をめざす気運が高まったことや、昭和48年から、峠下地区の聖山遺跡の大規模発掘調査を皮切りに、開発事業に伴う遺跡発掘調査が盛んに行われるようになり、調査で得られた膨大な考古資料の収蔵と保存が必要となりました。そのため、町教育委員会では、旧七飯中学校の特別教室だった校舎を改造し「七飯町郷土資料館（七飯町教育資料室）」を設置、収蔵資料の一般公開を始めました。

この郷土資料館は、当館の前身でありその後も町内の貴重な文化財資料を収集し続け、設置から約15年の年月を経た平成10年3月に、待望の「七飯町歴史館」が開館したのです。

長きにわたって、中学生徒達だけではなく、七飯町の歴史を語る資料まで守り続けてきた旧七飯中学校の校舎は、すべて取り壊されましたが、その役割を担った当館が、次代の七飯町の為に果たさなければならぬ課題は多いのだなと改めて感じます。

**11** 清々しい晴天の下、春の探鳥会を開催しました。3グループに分かれて、大沼森林公園を散策しながら、キビタキやカワセミといった美しい色の鳥や、やや大型なアオサギやダイサギなど、計47種の野鳥を観察することが出来ました。参加者の皆さんも、講師のわかりやすい解説を聞きながら、大沼の春を楽しんでいたようで、改めて七飯町の自然の豊かさを感じて頂けたと思います。



**18** となえの観桜会を開催しました。今年の桜の開花はやや早かったため、遅咲きの八重桜が中心となる観察会となりましたが、講師の浅利政俊先生の指導のもと、種類ごとの特徴や花卉の数の違いなどを実際に数えてみたりしながら、桜に親しみました。また、バスで移動して仁山駅周辺や寿公園の桜を見たりなど、町内に点在するちょっと変わった桜も楽しみました。



**31** ジュニア探検クラブで、農業に挑戦と題して、畑つくりとマリーゴールドを植えました。今年は、新たな試みとして、大沼流山牧場様のご協力を頂き、プラウやハローといった明治期に導入された西洋農器械を馬に曳かせるという実演も行いました。馬も人も戸惑う場面がありましたが、子どもたちにとっては、目にしたことない農作業風景だったと思います。貴重な機会を与えて下さった大沼流山牧場様には、この場を借りてお礼申し上げます。

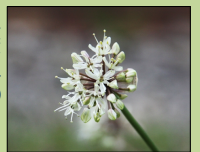


1	火
2	水 夜の博物館
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月 海の日
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土 昆虫採集・標本づくり教室(予定)
27	日
28	月
29	火
30	水 ジュニア探検クラブ
31	木

※7月の休館日はありません。

### 何の花？

当館の野草園で咲いた花です。みたことありますか？実は、行者ニンニクの花なんです。かわいと思いませんか？



### 編集後記 ~tawagoto~

この間、近くの林の中で粘菌と思われるものに出会った。粘着質な白いアメーバ状のものが、何かの葉っぱにまとわりついていたので。さっそく、葉ごと持ち帰り、飼育ケースに入れて観察してみたところ、徐々に広がりを見せ、最終的には、小さな灰色がかかった玉のようになった。長い時間がかかるとはいえ、動くということに感動した時間となった。まだまだ知らない世界が多いなと、つくづく思ってしまった出来事だった。(やまだひさし)

# Pichart

～ピチャリ～

第78号

平成26年6月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp